

	課題分析	授業改善策
国語	・「書くこと」や「読むこと」の領域における記述問題に課題が見られる。	・物語や説明文の読み取りでは、文章理解を深めるために音読をしたり、組み立ての可視化をして要点を確認したりする。 ・書く活動では、対象を絞ったり、日常から感じたことや考えたこと、自分の意見や考えなどを文で表したりし、表現することへの抵抗感を減らしていく。 ・表現語彙の拡充を図る手立てを授業の中で取り入れる。
社会	・資料の読み取りや記述式の設問の回答に課題が見られる。	・より多くの身近な資料に触れさせたり、資料をもとに考えを表現したりする活動を多く取り入れる。 ・分かったことをノートに書き、伝え合う活動をする。 ・ICTを活用するなど、資料の効果的な提示と精選を図る。
算数	・思考力・判断力・表現力に課題が見られる。 ・基礎基本の定着が不十分である。	・知識のみを教えるのではなく、「なぜそうなるのか」「どんな考えが大切か」を考えさせることを中心に授業を行う。 ・児童に解決の見通しをもたせ、自分の考えを図・式・言葉でノートにまとめて相手に伝えたり、友達の考えを聞いたりして考えを深める場を設ける。 ・個に応じた復習や計算問題を継続的に取り組ませる。
理科	・観察や実験において、結果と考察を区別して整理・記述することに課題が見られる。 ・既習事項と観察・実験の結果を結び付けて考えることが苦手な児童が見られる。	・結果（事実）と考察（考え）を明確に区別して、自分の考えを言葉で表せるように必要に応じて話型を示しながら指導する。 ・単元の導入や考察の場面で、これまでに学んだことと比べてどうかという比較・関連付けの視点を設定し、根拠をもって考察をさせる。
生活	・活動や体験に楽しく参加することができるが、それらを通して自分の気づきを深めることに課題が見られる。	・活動や体験から見付けたことを小グループや全体の場で伝え合い、児童が気づきを深める場面を丁寧に展開する。 ・児童の気づきを見取り、価値付ける声掛けをしていく。
音楽	・歌唱や器楽の表現活動において、自分の考えを全体へ言葉で表現する児童に限られ、主体的な発言や活動参加に個人差が大きい。	・「できた」「もっとこうしたい」など感じたことを伝え合うペア対話の時間を毎時間確保し、話型を掲示して見通しをもたせることで、自分の考えを言葉にする機会を段階的に増やしていく。
図画工作	・主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組むことができている。 ・自分なりの表し方を工夫したり、自分の活動のよさを価値付けたりすることに課題が見られる。	・既習事項や他教科との関連を意識しながら、児童の実態を考慮し、発想を広げる手立てや技能の応用を学習内容に取り入れる。 ・振り返りと鑑賞活動を毎題材ごとに取り入れ、教師の意図的な声掛けを行うことで、児童が自分の活動のよさに気づき、友達のよさや違いを認め合う機会を増やし、自己の発想や表現を深める手立てとする。
家庭	・自分の家庭生活を様々な視点で見直すことや具体的な課題意識をもって学習に取り組むことに課題が見られる。	・実践的・体験的な活動を充実させることで、知識・技能の確実な定着を図り、実生活で活用できるものへと高め、家庭実践への意欲につなげる。
体育	・体力・運動能力の調査の結果より、多くの学年で柔軟性、敏捷性において全国の平均値より下回っている結果が見られた。 ・児童同士が関わりながら学ぶ場面が少ない。	・授業の開始時と終了時にストレッチの実施や、授業の冒頭5分程度を使って、跳躍、ダッシュなどを組み合わせたサーキット運動を通して学校全体の柔軟性、敏捷性の向上を目指す。 ・グループでの学習を意図的に増やすとともに、ICTやタブレットを活用し、振り返りの充実を目指す。
外国語	・話す力・書く力などにおいて、個人差が大きい。	・興味関心を高めるために、歌やリズム、絵本やカードの教材選択を工夫し、ALTと協働しながら個別に声を掛ける。 ・文字を読むことへの抵抗感が減るように、フォニックスや動画など、音と文字を一致できる活動を取り入れる。

